



2017年2月8日

南相馬市議会議長

会派名
代表者氏名

会派名
代表者氏名
会派名
代表者氏名

調査研究報告書

- 1 期間 2017年2月4日（月）～2017年2月6日（水）
- 2 参加者 ① 高橋 真 ② 大岩 常男
③ 平田 武 ④ _____
⑤ _____ ⑥ _____
- 3 旅行先及び調査研究内容 別紙のとおり

調査研究報告について

研修日 2/4 (月) 2/5 (火)

研修先 衆議院会館 918会議室

研修事項

① 2/4 13;00~14;00 看取りについて

厚生労働省医政局地域医療計画化 医師確保等地域医療対策室長 松岡 輝昌より
少子高齢「多死」社会の到来を迎えて 2042年65歳以上 3878万人
2065年 高齢化率38.4%を受けて、死亡場所(病院 74,6%老人ホーム 6,3%
介護施設 2,3% 自宅 12,7% 診療所 2% その他 2,1%)の推移となるが、最期を迎
えたい場所は自宅54,6% 病院 27,7% 特別養護施設 4,5%また疾患別
の死亡別の推移、社会保障と税の一体改革における医療、介護の方向性、地域包括
ケアシステム、医療、介護のサ=ビスの改革、在宅医療と看取りについて講義を受
けるた。

本市の課題は、小高病院の再開に辺り、投資が少なく、どのような形で運営する事
が良いのか見解を求める。事情は察しており 19床の病室一挙に造らなくとも
有償診療の体制で、介護、看取りも可能とのこと。

② 2/5 9;00~9;50 ほ場整備にかかわる予算措置について

農林水産省 企画官 山岸雄一 防災課 課長補佐 吉田栄治より
圃場整備にかかる予算措置 21年約5720億円 31年約6451億円となっ
ている。主体的流れとして国50%県、市の負担37,5%自益者負担12,5%
となっている。土地の集積用件や中山間地、担い手への集積等によっても対応が
異なっていく。

委員から、20キロ外で、32年度まで整備終わらないが創生期間後の補助率につ
いての質問があり。復興予算なので農水省として答えられないが、たぶん引き継
がれて行くものと推察されるとのこと。

③ 2/5 10;00~10;50 小高スマートインターの今後の予定

道路局長 池田 豊人 高速道路課長 山本 功 防災課長 野田 勝
有料道路利用促進係長 金沢 翔平より

局長から、下高平北長野線 加速化交付金で対応で採択の方向だが、2020年の
サミットまでは無理だが、用地買収、橋の位置 常磐線の高架橋など協議に入る。
小高インタ=については、準備段階調査採択となり、30年9月に第一回準備会開
催され、現在ICの検討 利用交通量の算出 警察との協議 今後において
地元合意 コスト縮減 負担区分や管理、運営方法の調達に入るとのことでした。

④ 2/5 11;00~11;50 除去土壌再生利用実証事業について

環境省再生事業担当参事官 新田 晃 参事官補佐 山田 浩司より

12月の全協と同じ内容で報告を受けた。小高の羽倉での説明困難の状況から
もっと広めた説明会を準備したいとのこと、31年3月から実証実験は延びる方向
性が示された。委員から分別だけでなく除染して、線量をさげる工夫は出来ないの
か。8000ベクレル以下使用可能とのことだが法で定まっていない。行政と住民
に協力を求めるのかと聞くと無いとのこと。今後の動向に注視したい。

本市の課題となっている案件について
各省庁から研修を受けてきましたので、今後の政務活動に
活かして行きます。
以上 研修報告と致します。